

序

本書は渡邊崋山先生の事蹟の概観を広く一般に知っていただくために、田原町教育委員会によって発行したものである。本書の初版は昭和四十年三月、発行以来意外の好評を得て、その後改訂二、三、四、五、六刷と二千部ずつ、七刷には三千部を発行したが、今また残部僅少となったため、今回第八刷を刊行するにあたり、さきの誤謬や不十分な所を大幅に改訂増補し、更に二千部を出版することになった。そして今回より財団法人崋山会の発行となった。

崋山先生については、世代を通じ各様の論があるけれども、このように幅の広い人物は稀有といわねばならない。従って、崋山先生の全貌を究めることは到底一個人一冊子のよくする処ではない。例えば洋学者の開明的思想において、格調高い南宗画と新機軸の肖像画において、雄渾洒脱な詩歌書章において、一藩を救済した経世殖産において、また公私共温かく穏かなヒューマニティにおいて等々、何れの一面を研究するについても、専門的見識と時日を要するところである。

本書は先生の概歴を展望するために、編年式に年代を追って崋山その人の成長と共に進む形体をとった。それと先生の周囲をとりまく田原藩をはじめ様々な現象や人間像についても記述を加えることとした。なるべく多くの方々が生先生の正しい姿を知ってくださるような本でありたいとの願をもつて、あくまでも史実に忠実に、確実な資料の裏付けによって記述を試みたつもりである。

本書の記述について、

一、華山自身の呼称は「登^{のぼり}」を用いた。その故は「華山」の号は画道、学問の師友間において多く呼ばれたが、「登」の名は通称として公辺や藩中及び私生活の間に使われていたからである。

一、年月日は総べて陰暦を用いた。古記録を全部新暦に直すのは繁雑であり、時代の雰囲気を失うおそれもあるからである。

一、年齢については当時の計算法通り生れた年を一歳とする数え年を用いた。

一、巻末の「渡邊家系譜」は類書にない詳細正確を期した。また「華山年譜」はできるだけ重点的とし、特に歿後華山関係の年譜は新編成の苦心を払った。

一、構成の骨子は、華山著「退役願書稿」、松岡次郎著「全樂堂記伝」、三宅友信著「華山先生略伝補」、華山日記類、田原藩古文書及び藩日記類によった。

一、参考書は、鈴木清節編「華山全集」、土井礼著「華山研究」、井口木犀著「華山掃苔録」、森銃三著「渡邊華山」、菅沼貞三著「華山の研究」、佐藤昌介著「洋学史研究序説」等を用いた。

本書の初版以来、各方面の名士、知己から御懇切な激励と示唆を賜わったことに対し、ここに謹んで感謝の意を表する。

平成六年十一月

第九版の発行にあたって

本書は、昭和四十年三月に刊行、平成六年十一月に改訂版を刊行して以来、三十年が経過しました。改訂版は八刷りを重ね、渡邊崋山の研究に関わる多くの皆様からご支持をいただきました。心から感謝申し上げます。

そして今回、残部僅少となったため、第九版を刊行するにあたり、故小澤耕一氏がなるべく多くの方々から崋山先生の正しい姿を知っていただくような本でありたいとの願いをもつて、史実に忠実に、確実な資料の裏付けによって記述を試みた著書であることを十分に踏まえ、崋山先生の功績だけでなく、人間像を知る入門書としてお読みいただくため、これまでの誤謬に加え、新たに注釈や漢詩文の書き下し文など大幅に改訂増補し、出版することとしました。

崋山先生のような幅広い人物は稀であり、全貌を究めることは到底できませんが、本書により先生の理解が深まり、その理解の裾野が多くの方々から広がっていくことを願っています。

結びに、本書の初版以来、各方面の方々から御懇切な示唆や御尽力を賜りましたことに対し、謹んで感謝の意を表します。

なお、今回の変更点等は、以下のとおりです。

一、口絵の写真は、増すことなく、最新のものに変更した。

一、渡辺登の「辺」は、小澤耕一氏著であるため、これまでの「邊」とし、森銑三著「渡邊崋山」や菅

沼貞三著「崑山の研究」などの「邊」は、固有名詞として現行のままとし、常用漢字などに統一しない。

一、「盲」の表現は、現状に鑑み、「盲人」に変更するなど、現代にそぐわない表記は、変更した。

一、地名・人名、非日常的な漢字には平仮名ルビを、手紙文には句読点を追記した。

一、漢詩文には平仮名ルビを追記し、原文の片仮名ルビは、現状のままとした。また、理解を促すため、巻末に「補」として漢詩文の書き下し文などを追記した。

一、人名、地名、歴史等の補足事項は、注釈として頁上部に追記した。

一、作品所蔵者の表記は、公共団体や博物館以外は固有名詞ではなく、「個人蔵」に変更した。

一、地名や名称は、廃置分合による名称変更など、最新のものに変更した。その結果、本編と年表との表記に齟齬が生じても、本編が小澤耕一氏著であり、年表は本書発行時点であるため、致し方なしとした。

一、渡邊家系譜は、個人情報保護法の観点から、存命の方は、名のみ記載とした。

一、版は、現行のB6版からA5版に変更した。

令和六年三月

公益財団法人 崑山会

目次

構武敷徳（華山筆）

華山渡邊登肖像（椿山筆） 華山関係遺跡写真

序

第九版の発行にあたって

華山渡邊登

生いたち

出生、渡邊家、平山家、三宅藩、幼少の頃、平山文鏡

少年時代

日本橋の立志、鷹見星臯、家庭の貧困、初めて国元田原へ

画を学ぶ

白山芝山、金子金陵、谷文晁、華山、滝沢馬琴と琴嶺、藩校成章館

逆境に励む

弟妹離散、佐藤一斎、勉学、板橋の別れ、絵事甲乙会、灯籠画、椿椿山、金陵の死

青年時代

見よや春、長崎遊学、一掃百態、中秋歩月、竹村悔斎、結婚、心の掟、父の死、

吉田駒谷、鈴木春山、松崎慊堂、華山・ビュルゲル対談

藩譜の編集	95
康直侯、復統のこと、日省課目、家譜目録、目黒詣、定意の死、まきの死、三宅 仁太郎、小関三英、師範方被仰出案、游相日記、毛武游記、祖母の死	
藩政に就く	51
家老、難船事件、藩主直諫、参海雑誌、新田開墾免除、次子詣、助郷免除、農政 指導と大藏永常、佐藤信淵、蘭学研究と三宅友信、高野長英	
天保凶饑	65
報民倉、大患、眞木重郎兵衛、凶荒心得書、救荒、第五郎の死、無人島渡航願書、 羽倉簡堂	
西洋事情の研究	81
進書、駄舌小記或問、伊藤鳳山、商人八訓、八勿の訓、校書図、孔子像、退役 願書、江戸湾防備見分、江川英龍と鳥居耀蔵	
蛮社の獄	95
無人島渡航企一件、逮捕、奪紅秘事、小関三英の死、西洋事情御答書、慎機論、 獄中母を想う、慊堂の建白書、申渡之書	

田原幽居	108
国元護送、蟄居生活、岩本茂兵衛への書簡、立原杏所の死、守困日歴、于公高	
門図、黄梁一炊図	
自刃	123
半香義会、節操、不忠不孝、自刃の状況諸説、中島嘉右衛門の検死	
渡邊家系譜	143
崑山年譜	155
補（漢詩文理解のために）	189

表紙題字
渡邊登自署より